

欧州におけるアフォーダブルな鉄道運賃制度の展開 ： 第4次ヨーロッパンレイルウェイパッケージ提案前 後の事例を中心に

清水, 李太郎
九州大学大学院人間環境学府都市共生デザイン専攻

有馬, 隆文
九州大学人間環境学研究院都市・建築学部門

<https://doi.org/10.15017/1515763>

出版情報：都市・建築学研究. 26, pp.9-21, 2014-07-15. 九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部門
バージョン：
権利関係：

欧州におけるアフォーダブルな鉄道運賃制度の展開 — 第4次ヨーロッパレイルウェイパッケージ提案前後の事例を中心に —

Development of Affordable railroad fares in Europe

— Focusing on cases introduced around the proposal of the Fourth European Railway Package —

清水李太郎*, 有馬隆文**

Ritaro SHIMIZU and Takafumi ARIMA

In January 2013, the Fourth European Railway Package (FERP) was adopted by the European Commission. Considering ongoing political debates in EU, this paper aims to understand how, without waiting for its enactment, the proposal and preliminary debates for completing FERP can influence the introductions of cheap railroad fares in major European nations during past years. Through reading numbers of cases, the paper made some particular features embedded within them explicit: Firstly, they address filling different dimension of gaps - between nation and nation, urban and rural, public capital and private capital, and people and people and so forth. Secondly they realize provision of affordable access to diversity of users mostly by utilizing vacancy in rail operations. Thirdly, they aim to develop optimized provision of affordable access sensitive to user's lifestyles. Besides, the in-depth reading of German and French cases indicated unique methodologies of, as well as strong demands of people for accessing affordable railroad fares.

Keywords: Affordable Access, Regional Development, Railroad fares, Europe

アフォーダブルアクセス 地域発展 運賃割引制度 欧州

1. 研究の背景と目的

2013年1月に欧州連合の新たな鉄道政策、第4次ヨーロッパレイルウェイパッケージ(以下、FERP)が欧州委員会で採択された^{注1}。同政策案は欧州全体で統合されたチケットシステムの整備、民間資本の積極的な活用を背景とした、利用者のニーズに敏感な鉄道サービスの提供という方針に加え、「統合された鉄道圏(Single Railway Area)の形成」という、欧州の広域的な発展のための大きな方向性が示された^{注2}。同年にイギリスでは鉄道サービスの情報提供主体がATOCからレイルデリバリーグループに移行し、グループポリシーでは多様な利用者のニーズに応えたアフォーダブルな鉄道サービスの提供が強調され^{注3}、FERPの内容と歩調を合わせている。

一方、近年の日本では経済発展の成熟化と人口縮退の顕在化という大きな社会変化の中で、広域圏を枠組みとした新しい発展の方向性が模索されている最中である。同じ先進諸国であり、人口の高齢化や不安定な経済情勢など、類似した社会問題を抱える欧州における広域圏の発展を巡る動向は、日本における新しい発

展のあり方を検討する上で重要であり、詳細に研究する意義は大きい。FERPは2013年末の時点で欧州議会での議論が続いており、同政策の鉄道運営への直接的な影響を見る事はできない状況にある。しかし欧州連合の政策立案プロセスには関係各所との非公式の協議が存在しており、提案後から法案成立に至るまでの期間だけでなく、FERPの正式な提案の前においても、運賃制度に何らかの影響が表れている可能性が考えられる。そこで本稿ではFERP前後の時期に欧州の主要国で導入された運賃割引制度の実態の把握を通して、FERPが掲げる政策目標と共通する要素を検証すると共に、対象国を絞った詳細分析を通して、安価な運賃割引を実現する仕組み、アフォーダブルな運賃への人々のニーズの高さを解明することを研究の目的とする。

1-2 研究の位置づけ

西欧諸国における鉄道会社の運賃制度に関する研究に関しては1960年代からイギリス、ドイツ、フランスなどの現在の欧州の主要国を対象とした研究が数多く行われている。現在のEUに関するものは1991年以降に見られ、欧州連合発足時から進められる上下分離政策の進展に着目した研究が中心である。一方で本稿が対象とする2010年以降の研究はあまり蓄積は見られず、上下分離政策の鉄道利用料への影響について、欧州各国の比較分析をおこなった小澤、根元²⁾らの研究

* Department of Urban Design and Disaster Management
都市共生デザイン専攻

** Department of Architecture and Urban Design
都市・建築学部門

が数少ない先行研究の一つとして挙げられる。同稿では欧州各国の政府の財政状況と鉄道運営に対する国による補助の状況と、それによって生じる鉄道使用料決定の要因について国際比較を行っている。しかしながら本稿のように、2013年のFERPの導入前後の時期に焦点を当て、新たに導入された運賃制度の特徴と利用状況についての国際的な比較を行った研究はあまり見られない。

1-3 研究の手法

本稿では欧州連合発足時初期の主要国で高速鉄道を有し、近隣国と路線を共有するイギリス、フランス、ドイツ、オランダ、ベルギー、スペイン、イタリアの7カ国における元国営鉄道会社を研究対象とする。分析には表1に示すプレス情報を中心としたアーカイブ資料をデータとして利用する(表1)。まず2章では欧州各国の鉄道会社に見られるの近年の新しい会員制運賃割引制度の導入状況についての比較分析を行う。続いて3章では会員制度以外の割引制度の導入状況を明らかにし、新たに導入された割引制度の価格、運賃割引の特徴、対象とする利用者層などの特徴について明らかにする。ここでは研究対象とする国の鉄道会社で共通して入手できる2011年以降のデータを利用し、前年度の情報が利用可能な国については参考までに2010年のものも分析対象に含めた。4章ではドイツとフランスの事例に焦点を当て、2010年以前と以降の割引運賃の導入の状況の関連性を明らかにすると共に、安価な運賃割引を生み出すための特徴的な仕組み、そして安価な鉄道運賃の利用を販売数の把握を通して行う。

表1 研究対象の鉄道会社と利用するデータの期間^{4)~15)}

鉄道会社名称	企業HP	HPプレス情報	その他	情報発信主体
NR ⁴⁾	2014年	2002-2014年	2013-2014年	ATOC ⁵⁾ RDG ⁶⁾
DB ⁷⁾	2014年	2010-2014年	2002-2011年	Ticket information ⁸⁾
SNCF ⁹⁾	2014年	2013-2014年	2002-2011年	Ticket information ⁸⁾
NS ¹⁰⁾	2014年	-	2010-2011年	Treinreiziger ¹¹⁾
Renfe ¹²⁾	2014年	-	2011-2014年	Renfe Brog ¹³⁾
Trenitalia ¹⁴⁾	2014年	2011-2014年	-	-
SNCB ¹⁵⁾	2014年	2011-2014年	-	-

2. 対象国における会員割引制度の導入状況

研究対象の各国における2010年から2014年4月までの動向を見ると、様々な割引制度が導入されており、各国に共通する目立った動きとしてポイントサービス付きの会員制割引が挙げられる。会員制の割引制度の導入状況を見ると、2002年の時点で既にイギリス、フランス、ドイツで導入が見られ、2011年以降にこれらの国以外でも新たに会員制割引を導入する動きが多く見られる。各国の割引制度の概要は次頁表2の通りである。

2-1 National Rail (イギリス/以下NR)⁴⁾⁵⁾⁶⁾

イギリスでは2008年に既存の会員制割引のレイルカードが12-28レイルカード、ファミリー&フレンズレイルカード、シニアレイルカードの3つのクラスに統合された。国内のほぼ全ての列車を対象に鉄道運賃の34%割引適用されるが、ピーク時には12£の最低運賃が設定され、オフピーク時の利用が推奨されている。レイルカードの価格は一律で年間30£であり、3年間の継続購入は70£で購入可能である。調査対象期間における動向としては、2014年に30年ぶりとなる新しいレイルカードのトゥートゥギャザー(30£)が導入され、ペア対象の会員制度で年会費が実質半額になり、更に安価な会員制割引が整備された。

2-2 Deutsche Bahn (ドイツ/以下DB)⁷⁾⁸⁾

ドイツでは2002年に鉄道運賃の割引率に応じたバーンカード25・50・100が導入され、以降これらの割引区分に変更は行われていない。国内のほぼ全ての列車の鉄道運賃に適用され、会費はファーストクラスとセカンドクラスで異なる。セカンドクラスはそれぞれ年会費65€/255€/4090€で、年間パスのバーンカード100は他と比べて高価である。2013年には長距離列車に使われるエネルギーが100%再生可能エネルギーになり、更にカード所持者が200km以上の長距離交通を行う際、到着地に加えて出発地の都市交通も無料化された。近年ではサンプルバーンカード25を導入し、短期間に限定した利用者層の開拓を進めている。

2-3 Société nationale des Chemins de fer Français (フランス/以下SNCF)⁸⁾⁹⁾

フランスでは2012年冬に既存の会員制割引の1つである12-25カードの対象年齢層がユース・ヤングの2つに細分化され、チャイルド+・ウィークエンド・シニア+と合わせて、全部で5つの会員制割引へとリニューアルされた。国内の殆どのセカンドクラスの列車を対象とし、常時25%の割引に加え、最大50%割引の事前割引チケットの購入が可能になる。また、利用者層の多い地方鉄道のオフピーク利用が常時50%割引になる。ユースカードとヤングカード所持者には直前割引が適応され、シニアカードにはファーストクラスへの45%割引が適応される。会員価格は年会費50€~75€である。

2-4 Nederlandse Spoorwegen (オランダ/以下NS)¹⁰⁾¹¹⁾

オランダでは2011年に新しい会員制割引が導入され、オフピーク時の利用をターゲットにした割引(無制限/40%割引など)が数多く整備された。また、どの割引制度もグループ割引の適用が可能である。価格

はファーストクラスとセカンドクラスに分けられ、セカンドクラスでは月15～99€の割引区分と、年間無制限パスで月額318€(年契約時)のオールウェイスフリーが利用できる。

2-5 Renfe (スペイン) ¹²⁾¹³⁾

スペインでは2012年12月にフランス・スペイン間の高速鉄道が開通し、翌年2月に高速鉄道と長距離列車対象の割引を多数導入している。このうち若者に限定した Tarjeta Joven カードは年会費22€で高速鉄道の利用に30%の割引が適用される。Renfeは同割引を導入することで、若者の高速鉄道利用の促進を目指している。

2-6 Trenitalia (イタリア) ¹⁴⁾

イタリアでは2006年からポイントプログラムとして Freccia カード存在していた。2011年夏に会員限定のサタデーイタリアンキャンペーンが実施され、週末の鉄運賃を半額にする同割引への反響の大きさから、以後 Freccia カードに鉄道運賃の割引特典が付与された。週末割引はその後、常時購入可能な割引制度となり、現在の Freccia カード会員にはオフピーク時利用の半額割引が提供されるほか、様々な文化施設や文化行事と連携した割引チケットの提供が行われている。尚、Freccia カードへの入会費は無料である。

2-7 Société nationale chemins de fer Belges (ベルギー/以下 SNCB) ¹⁵⁾

ベルギーは対象国の中でも非常に安価な割引制度を数多く有しており、会員制度を導入する動きは見られない。しかし2013年からブリュッセル首都圏地域で利用されていたスマートカード MOBIB のサービス圏を拡大し、既存の割引制度の電子情報化を進めている。

3. 会員制割引以外の運賃割引

2010年～2014年の期間には、上述した会員制割引以外にも数多くの運賃割引が提供されている(次頁表3)。

3-1 NR ⁴⁾⁵⁾⁶⁾

NRでは2008年の運賃制度改正以来⁴⁾、会員制度・非会員制度共に大きな動きは見られず、数少ない事例の一つとして、2010年にイギリス・フランス・ベルギーによる多国籍企業のユーロスターが欧州各国の文化施設の利用を条件にしたペア割引を導入している。

3-2 DB ⁷⁾⁸⁾

DBでは2013年以降、国際路線割引の導入が際立っており、2013年にパリ行き格安チケットが販売され、同年夏には夏期限定のジャーマニーチケットが通常の国内1ヶ月パスの機能に加えてスイス・オーストリアでも利用可能になった。2014年にはブリュッセル経由

表2 2010年以降の調査対象国における会員制割引の導入状況とその特徴

国	会員制割引名称	導入年	対象年齢	長距離	短距離	会費	運賃割引 ピーク時	割引割引 ピーク外	同乗者 割引	割引 人数	会員 特典	備考
SNCF (フランス)	チャイルド+	2012年	4歳以下	○	○	75€/年	無料	無料	25-50%	最大4人	有り	シニアカードはファーストクラス割引(45%)有り ヤングカードとユースカードに直前割引の提供 ヤングカード、ユースカードに事前購入割引最大60%、シニアカードに最大50%適用
	ユース		4~12歳			50€/年	25%	50%	-	-		
	ヤング18-28		12~17歳			75€/年	-	-	-	-		
	ウィークエンド		18~28歳			80€/年	-	-	-	-		
	シニア+		28~59歳									
			60歳以上									
NS (オランダ)	オールウェイス アドバンテーン	2011年	14歳~	○	○	140€/年(年) 25€/月(月極)	20%	40%	同左	最大3人	有り	初年度のみ29€で利用可能 高齢者には1等車99€, 2等車42€で販売 入会者の家族が購入する際には2等車42€で販売 高齢者には1等車65€, 2等車40€で販売 会員の家族の購入には1等車40€, 2等車20€で販売(月額) 会員の家族の購入には1等車42€, ウィークエンドフリーを20€で提供(月額、セカンドクラス)
	ダルフリー (DF) 1st Class					172€/月	-	無制限	-	-		
	ダルフリー (DF) 2nd Class					99€/月	-	-	-	-		
	ウィークエンドフリー 1st Class					65€/月	-	40%	ピーク 外40%	最大3人		
	ウィークエンドフリー 2nd Class					45€/月	-	-	-	-		
	オールウェイスフリー					318€/月(年) 398€/月(月極)	無制限	無制限	-	-		
キッズフリー	4-13歳	15€(会員割引 入会で無料)	-	無料	子供料金無料	-	-					
NR (イギリス)	16-25	2008年	16-25歳	○	○	30€/1年 (3年入会で20€引)	34%/ 最低運賃 (12€)	34%	-	-	有り	・16-25は26歳以上のフルタイム学生も対象 ・シニアレイルカードにはファーストクラス割引有り
	ファミリー&フレンズ		5-15歳						大人34% 大人4人 子供60% 子供4人			
	シニア	26-59歳	-			-	-	-				
	トウトウギャザー ネットワーク	2014年	60歳以上			2人で30€/年	34%/ 最低運賃 (13€)	34%	60%	子供4人	-	
		1986年	16歳以上									
DB (ドイツ)	ジュニアバーンカード	2003年	6-18歳	○	○	10€	国内・国際線25%	-	-	-	有り	割引バーンカードは2010年に導入 高齢者、会員家族には、1等車81€, 2等車41€で提供(月額) 高齢者、会員家族には、1等車252€, 2等車127€で提供(月額) 会員家族に割引バーンカード25/50を提供
	バーンカード25 2nd Class					125€	国内・国際線25%	-	-			
	バーンカード25 1st Class					62€	国内・国際線25%	-	-			
	バーンカード50 2nd Class					515€	国内50%/国際線25%	-	-			
	バーンカード50 1st Class					255€	国内50%/国際線25%	-	-			
	バーンカード100 2nd Class					639€/月極 6890€/年	無制限	無料	最大4人			
	バーンカード100 1st Class	379€/月極 4090€/年	無制限	無料	最大4人							
再生可能エネルギーによる 長距離交通の運行	2013年	-	○	-	-	-	-	-	-	-	長距離交通をグリーンエネルギーで運行し、環境保全への貢献 という付加価値を付加	
シティチケット機能の拡大	2013年	-	○	-	-	-	-	-	-	-	100m以上の移動に出发地・目的地の都市交通を無料提供	
Renfe (スペイン)	Tarjeta Joven Renfe	2012年	14~26歳	○	○	22€	30%	-	-	-	有り	-
T-Italia (イタリア)	FRECCIA	2011年	-	○	○	無料	-	50%(火-木 ・屋)	-	-	有り	累積ポイントに応じてカードランクが上昇、夜行列車と高額車両は対象外
SNCB (ベルギー)	MOBIB(エリア拡大)	2013年	-	○	○	カード代金	-	-	-	-	-	既存の割引制度の電子化

ロンドン行の格安国際路線の運行が始まり、同年には寝台列車対象のペア割引が実施されるなど、国境を越えた移動を活性化する動きが見られる。新規の運賃割引制度の導入には大きな動きはあまり見られず、2011年にオフピークの利用を促進する19時チケットの導入、2013年に週末の鉄道利用に割引を適用するサタデーチケットが期間限定で販売されている。この他には生活雑貨販売店、スーパーマーケットなど、生活に密着した企業との連携による格安チケットの導入が定期的に行われている。

3-3 SNCF ⁸⁾⁹⁾

SNCFは調査対象国の中で最も活発に割引運賃制度を導入している。特に長距離列車に対する割引が多く、2011年には高速鉄道TGVのペア割引、南フランスの地方鉄道による1€列車の運行開始、2012年に主要都市間交通intercityのミニグループ割引、指定路線・運行本数限定の格安運賃「100%エコ」の導入、グループ旅行を対象にした欧州の主要都市を結ぶ国際バスサービスのiDBUSの運行開始、2013年にはパリと南フランスを結ぶ安価なTGVサービスOuigoの運行開始など、

表3 2010年以降の非会員制運賃割引制度の導入状況^{注6}

割引制度名称	導入年	割引方法	割引方法													
			長	団	国	オ	事	固	企	ベ	往	地	世	記	回	乗
NR	ユーロスター ペア割引	2010年	対象都市の文化施設を利用する際の高速鉄道をペア半額割引	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
DB	企業コラボチケット	~2011年	国内・国際鉄道チケット、鉄道チケット割引券などを民間企業が店頭販売	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
	19時チケット	2011年	土曜日19時以降の乗車に大幅な割引を適用、~2002年のグッドイブニングチケットの再販	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ジューマニーバス	2013年	1ヶ月バス(夜行列車除く)利用期間を2期に分割可能、スイス・オーストリアでも利用可能	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
	サタデーチケット	2013年	10月~12月限定、土曜日限定で往復移動を格安提供。高速鉄道は追加料金が必要	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
	パリ行き特別割引引き	2013年	数量、期間限定でパリ行きを格安チケットの提供、2ヶ月間限定、SNCFとの連携	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
	エントリーチケット	2013年	2月下旬~3月末まで、固定価格でドイツ国内、国外主要都市へのチケットの提供	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ロンドン行き格安旅券 寝台列車 ペア割引	2014年	ICEとユーロスターをブリュッセルで乗り換え、ドイツからイギリスまでの直通サービス提供	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SNCF	TGVペア割引	2011年	TGVチケットをペア割引、2ヶ月間限定	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
	iユーロ列車	2011年	区間固定の格安列車、Languedoc-Roussillon地域圏	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
	小グループ割引	2012年	3~6人のグループ対象の割引(2013年に6人に拡大)	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	iDバス	2012年	欧州の主要都市間を結ぶ小グループ旅行をターゲットにした高速バスサービス	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	100%エコ	2012年	運行本数、区間固定の格安長距離列車	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	OUIGO	2013年	1日2便、パリと南フランスを結ぶ格安高速鉄道。全てPrem'sで提供される。要30分前集合	○	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
	TGVnorth20周年記念旅券	2013年	土曜日限定の格安チケット提供	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
	スイス行きグループ割引	2013年	スイス行きグループ向け割引チケット	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	iDBUS 高齢者向け割引	2013年	55歳以上の高齢者を対象としたグループ割引の提供	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
	南フランス格安チケット	2013年	ブリュッセル-南フランスへの3ヶ月限定格安チケット	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	パリ発着者向け格安切符	2013年	12~28歳まで対象(割引会員カード保持者向け)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
	iDバス1周年記念イベント	2013年	2013年に1周年記念イベント、7月13日の利用者に40€の引換券提供、年間20万人の利用	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-
	モビリティウィーク限定無料	2013年	1000人のTERLanguedoc-Roussillonの乗客に無料乗車券の提供	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-
	アメリカ映画空港連携	2013年	Deauvilleのアメリカ映画祭行き18万枚のPrem'sチケットを15€で提供、10日間限定	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
	TERのサマーオファー	2013年	地域圏毎に夏期限定の割引チケット、施設入場割引等の提供	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
	サタデーPrem's	2013年	土曜日利用限定の往復Prem'sの提供、Prem'sTGV限定、有効期間3ヶ月間	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-
	Prem's切符特売	2013年	百万枚のPrem'sチケットの提供、Prem'sTGV限定、有効期間3ヶ月間	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
	新年格安切符	2013年	12月9日時点で売れ残ったTGVの1月1日乗車分のチケットを全てPrem's価格で提供	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-
	ストラスブルグ・マイブル割引	2014年	カップル向けの割引、10日間のイベントのための50%割引、フランス-ストラスブルグ間限定	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
スキー割引	2014年	スキーリゾート地を有する地方圏のTERがスキー関連割引特典付きチケットを販売	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○	-	
iDバスグループ割引	2014年	10人以上を対象とした新割引制度	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
INTERCITÉS特売チケット	2014年	INTERCITÉSの有効期間1ヶ月間の格安チケットの数量限定販売	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Ouigo夏期チケット先行販売	2014年	南フランス行き高速鉄道の格安チケットの先行販売	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	
Prem's特別列車の運行	2014年	イベント連携、格安チケットPrem'sのみの本数限定のTGV運行	○	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	
NS	Salt Offers	2011年	NS公共交通バス、NS定期券、NSピークアワー所持者を対象とした割引	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Fyra スーパー割引	2012年	週末のみ利用可能、インターネット予約限定、Fyraの走行区間対象、キャンセル、変更可能	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Fyra ジャンプオンチケット	2012年	直前購入限定の高速鉄道格安チケット	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Group Return	2013年	4人のグループ移動のチケットを49€で提供、最大10人まで、4人以上は1人あたり2.5€	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	パリ行き特別割引旅券	2013年	パリ行き高速列車に対する割引。タリス、NS高速鉄道、TGVとの連携	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
Rover コラボ	2013年	Rover入会(年間20€)で、ファーストクラス向け週末割引カードの購入を45%割引	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
企業コラボチケット	2013-14年	オフピーク時(平日・週末)対象の格安旅券を民間企業が販売、商品購入特典として提供	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	
T-ITALIA	サタデーイタリアン ペア割引	2011年	土曜日限定で運賃をペア50%割引、各種イベントとの連携による付加価値(入場割引など)	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-
	Cartafreccia Day	2012年	Frecciaカード会員に平日オフピーク時間帯50%割引、サービス延長は毎年年末に決定	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SNCF	ベルギー行きペア割引	2014年	オランダ国内からブリュッセル、アントワープへの運賃を2人分を1人分で提供	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
Renfe	4人座席割引	2011年	4人掛け座席の予約で運賃の大幅な割引	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Tarjeta プラス 10/バス	2012年	2ヶ月間有効な10回分の回数券、8日以内に使用する必要あり	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
	学生向けTarjeta+10/バス	2012年	2ヶ月間有効な10回分の回数券、10日以内に使用する必要あり	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
	往復割引	2013年	従前のシステムを引き継ぎ20%の割引、有効期間を新たに10ヶ月延長	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
	'Multiple Journey'	2013年	長距離列車を連続利用するビジネスマン向け切符	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	事前予約割引	2013年	事前購入で高速鉄道の大幅な運賃割引	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
	事前予約割引プラス	2013年	事前購入で高速鉄道の大幅な運賃割引、変更、払戻しに柔軟な対応、ラウンジルーム提供	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	Bono AVE' ten travel	2013年	4ヶ月間有効な10回分の回数券、ラウンジルーム、駐車場利用の特典あり	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
フレキシブル回数券	2013年	変更、払い戻しの条件が緩和された回数券	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
高速鉄道値下げ	2013年	高速鉄道初の値下げ、エコノミークラスの価格を11%値下げ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	

ペア:ペア割引/往復:往復割引/地方:地方鉄道割引/世代:特定世代割引/記念:記念乗車券/回数:回数券

長距離:長距離割引/団体:小団体割引/国際:国際路線割引/オフ:オフピーク割引/事前:事前予約割引/路線固定:指定列車/イベ:イベント連携/企業:企業連携/乗放:乗り放題

計 16 14 14 10 13 9 8 8 7 2 5 5 5 4 2

安価な運賃制度の導入が続いている。この他には数量限定のPrem's TGV^{注5}とintercityの割引チケットや土曜日限定のTGVの割引チケットの限定販売（2013年、2014年）、イベントと連携したパリーストラスブルグ間のTGVのペア割引（2014年）、ブリュッセル発、南フランス行きの特売チケットとスイス行きのグループ向け国際路線割引の期間限定販売なども行われた。

民間企業とのコラボレーションも見られ、2013～2014年には地方鉄道と地場企業が連携した夏期割引、イベントと連携した特別TGVの運行、冬期限定で国内のスキー場と連携した割引チケットの販売などが行われている。

3-4 NS¹⁰⁾¹¹⁾

NSでは2011年に既存の会員制割引の利用者を対象としたSalts割引を実施し、オフピーク時間帯の鉄道利用を促進する試みが行われた。2012年にはオランダ製の高速鉄道Fyraが週末限定チケットや、直前購入限定の非常に安価なチケットを販売していたが、(アムステルダム-ロッテルダム間9€など)現在は車体トラブルの関係からFyraの運行は凍結されている。2013年には4～10人対象のグループの往復利用に対して4人目以降の乗客の運賃を一律2.5€にする割引や、パリ行き国際路線割引チケットの販売も行われている。

国内の主要な民間企業との連携による割引チケットの導入も行われ、公共交通の利用推進団体Roverと連携では新しい会員制割引のファーストクラスの入会金に45%割引を適用する特典が期間限定で提供された。

3-5 Renfe, Trenitalia, SNCB¹²⁾¹³⁾¹⁴⁾¹⁵⁾

Renfeは2012年に4人掛け座席の予約に限定したグループ割引を導入し、2013年には高速鉄道の開通を受け、高速鉄道と長距離列車を対象とした事前予約割引・事前要約割引プラス(最大65～70%割引)、10回分の割引回数券Bono ave' ten travelを導入している^{注7}。Trenitalia、SNCBの2社についてはあまり大きな動きは見られず、Trenitaliaでは2012年から週末限定のペア割引が常時利用可能になり、SNCBでは2014年にオランダ-ベルギー間の高速鉄道タリスに対してペア割引が期間限定で実施された^{注8}。

表4 2010年以降の運賃割引制度の国別比較

鉄道会社名	長距離	国内	事前予約	企業向け	往復割引	地代	世帯	回数	乗換	会員制度の特徴				
NR	1			1	1					ペア対象の会員制割引				
DB	2	6	3	1	2	2	1	1	1	従来の会員制割引の継続				
SNCF	9	7	5	2	9	8	5	3	2	世代毎の生活像に合わせた割引				
NS	2	3	1	3	2	1	3	1	1	オフピーク時間帯を活用した割引				
Trenitalia				2		1	1			地域資源との連携による割引				
SNCB	1	1				1				会員制度の導入無し				
Renfe	5	1		2			1	1	4	若者限定の会員制割引の提供				
合計	16	14	14	10	13	9	8	8	7	2	5	5	4	2

※該当数が3つ以上のケースについて網掛けで表示

3-6 小結

ここまでの分析では国別の会員制度・非会員制度について分析を行ってきた。下表は3章で明らかにした非会員制割引の方法についてまとめた表3の内容を国別に集計したものと、各鉄道会社の会員制割引の概要をまとめたものである。

まずイギリス、そしてベルギーでは運賃割引制度には大きな変化は見られず、イギリスで30年ぶりに新しいペア利用対象の会員制割引が導入されたことが数少ない大きな動きの一つである。SNCBでは新たにスマートカードが2013年以降導入されているが、これは利便性の向上のみで新しい割引を提供するものではない。NRとSNCBとは対照的にSNCFでは網羅的に運賃割引が導入され、会員制度も同様に割引制度の内容や対象世代の多様さを大きな特徴としている。

NSではオフピーク時間を活用した割引と民間企業とのコラボレーション、そして団体割引が多く、オフピーク活用という点でNSの運賃割引制度の方向性は一貫している。DBでは従来の会員制度を維持しながら、オフピーク割引、国際路線割引、企業とのコラボレーションが行われている。最後にTrenitaliaはオフピーク割引の試験的実施が短期間限定で実施され、以後は様々なイベントや地域資源と連携した会員制割引として提供されていることが特徴である。

4. 新たに導入された割引制度の特徴

前章で整理した各国の割引制度を比較し、複数の国の間で共通する割引制度を整理すると、以下のように大きく6つの特徴的な役割を見いだすことができる。

4-1 長距離交通の促進

まず国内の高速鉄道や長距離列車、国際路線に対する割引が多いことが大きな特徴である。DBやSNCF、NRでは古くから同様の割引を会員制割引を通して提供しているが、ここ2,3年間の間にDBのシティチケットの対象拡大(2013年)、SNCFの主要都市間交通の割引(2012年)やパリと南フランスを結ぶ高速鉄道Ouigo(2013年)、ロッテルダムとアムステルダムを10€程度で結ぶFyra(2012年)など、長距離の移動を容易にする割引制度が数多く導入され、同様の動きはTrenitaliaやRenfeにも見られる。2013年以降、各国で見られる国際路線割引の増加も、鉄道を利用した広域的な人の移動を活性化させ、地理的な隔たりを解消する動きといえる。

4-2 小グループによる利用の促進

SNCF、NR、NS、DBの会員制割引では何れも2-4人

程度の比較的小さなグループの利用を可能にする割引区分が存在する。2011年から各国で新たに導入された非会員制の運賃割引についても、SNCFのintercityが導入したミニグループ割引や、Renfeの4人座席割引、NSのグループ往復割引など、何れも同様の特徴を共有している。これらの割引には、グループによる利用を促進する事で、利用者数を増加させると同時に、移動中の乗客同士のコミュニケーションを重視する意図が働いているものと言える。とりわけ2012年にSNCFが導入したiDBUSでは、移動中の知人や家族との多様なコミュニケーションをサービスの利点として強調している。

4-3 低利用空間の活用の促進

割引制度の多くは朝のピーク時間外、週末など、利用者数の少ない時間帯や、ファーストクラス車両のように列車の余剰スペースを活用している^{注9}。基本的にNR、SNCF、NSの会員制割引はこのようなオフピーク時間帯や、利用率の低い車両を活用した割引である。会員制割引以外にも、DB、SNCF、NSに見られる夜19時以降や週末限定の特売チケットの販売は、鉄道運行における時間的、空間的な空きを有効活用し、利用率の低い時間帯の利用者数の増加を促す制度といえる。

4-4 民間資本や地域資源との連携促進

研究対象とした鉄道会社の多くでは、何らかの形で民間企業や地域に現存する文化資源、観光資源と連携した割引を提供する動きが見られる。ユーロスターによる文化施設訪問者に対するペア割引の適用、SNCFによる文化行事に合わせた様々な特別列車の運行、Trenitaliaによる地域の文化施設利用や文化行事に合わせたペア割引の提供などが該当する。この他にDBやNSでは民間企業との連携で割引チケットが販売されている。

4-5 特定の世代の利用の促進

先述したSNCFの会員制割引では、既存の会員制度のなかで若年層のサービスを細分化し、それぞれの年代層のニーズに合わせた割引制度の提供を開始した。若者には直前購入限定の割引チケットが提供され、高齢者と若者には事前予約割引が提供されている。Renfeではより明快に高速鉄道や長距離列車における若者世代の利用の促進を目的として若者限定の会員制割引が導入されている。この他にもDBのバーンカードの年会費を若者と高齢者に対して減額する割引バーンカード(2010年)や、SNCFによる高齢者や若者に限定した特売チケットやペア割引の販売も見られる。このように、新しい割引制度には特定の世代 - とりわけ若者と高齢

者を対象とした鉄道利用を促進するものが多く見られる^{注10}。

4-6 個人アカウントの提供による様々な付加価値の創出

会員制割引やスマートカードを導入した研究対象国では、どの国においてもカード所有者には個人アカウントが作成され、利用状況をもとに会員個人々のニーズに合わせたサービスや割引運賃の情報提供が行われる。このようにライフスタイル別に最適化されたサービスの提供が新しい会員制運賃割引で目指されている。また、調査対象の7カ国中4カ国でポイントカードプログラムが導入されており、鉄道の利用に応じて様々な提携企業の特典の提供や、鉄道チケットとの引き換えが可能になるなど、鉄道の利用に新しい付加価値が創出されている^{注11}。

4-7 小結

このように2章・3章の分析では、FERP採択前後の欧州に新しい会員制度、そして非会員制の運賃割引の双方に数多くの導入例が見られることが明らかになった。これらの事例の特徴から導かれた6つの運賃割引の役割は、FERPで示された、「多様な利用者のニーズに敏感な鉄道運賃の提供」、そして「統合された欧州の鉄道圏の形成」という方針を補完する内容になっていることが分かる。また、「民間資本の積極的な導入」の事例について数多く見られ、FERPで意図されている、競争の原理に基づく公共サービス契約の導入とは異なる形態ではあるものの、民間資本を積極的に活用した運賃割引のあり方が生み出されていることが分かる。このように新たに導入された運賃割引制度は、欧州で目指されている新しい鉄道政策の目標と多分に一致しており、その実現のために、現在の鉄道運営の体制の中で実現可能な具体的施策の応答として捉えることが可能である。

5. アフォーダブルアクセスの社会的インパクト

本章では研究対象国の中でもとりわけ多くの割引制度の導入が見られるドイツとフランスを取りあげ、2010年以前の導入状況と2010年以降の導入状況の関係、2つの国で取られている安価な鉄道運賃の実現のための仕組みを時系列的な理解を通して明らかにし、更に安価な鉄道運賃に対するの人々のニーズの高さについて、販売数の把握を元に明らかにする。

5-1 DB - 会員制割引と連携した大幅な運賃割引 6)7)

5-1-1 2002年以降の会員制割引の導入状況

(1) 年間契約の会員制度 - DBは1990年代から会員制割引が導入しており、2002年まで年間140€で50%の鉄

道運賃の割引を提供していた（表5）。2003年に既存の制度を一新し、バーンカード25・50・100を導入して以来、今日までこの3つのクラスがDBにおける基本的な会員制割引の区分として位置づけられている。そして2006年にユースバーンカード25（年間10€）、2010年にはディスカウントバーンカード25・50（高齢者と若者対象）が新たに追加された。

(2) 短期間限定の会員制度

年間契約の会員制割引に加えてDBは短期間の利用に限定したバーンカードの販売を行っている。これらの

表5 2002年以降のバーンカードの導入状況

導入年月	バーンカードの導入状況
2002年 12月	旧バーンカードのサービス終了
2003年	企業向けバーンカードの導入
2-3月	旧バーンカード所持者特典（格安夜行列車の提供、数量限定で無料提供）
7月	バーンカード25/50/100の導入/2週間で21000枚の販売
9月	バーンカードにシティチケット機能追加（100km以上の移動に都市交通無料）/44都市対象
11月	中小企業向けバーンカードの導入
12月	シティチケット対象の拡大 /46都市対象
12月	長距離交通に対してポイント2倍付与
2004年 2月	券売機での購入にポイント2倍付与
12月	シティチケット拡大 67都市対象 合計300万枚の販売、約半数がバーンカード25
2005年 1月	バーンカード購入者の子供にバーンカード25無料提供キャンペーン
1-3月	約82万枚のバーンカードの発行（無料キャンペーンとシティチケットの影響）
3月	シティチケット利用状況 販売総数が2千万枚到達
8月	ユースバーンカードの導入、シティチケットの対象80都市
9月	環境バーンカードの販売（短期間限定）
9月	バーンカード特典（Dauerスペシャルにバーンカードの割引適用）
2006年 6月	ファンバーンカードの販売（短期間限定）/42万枚販売
6月	バーンボーナスポイントで鉄道チケットの引換え開始
7月	年間バス所持者にバーンカードの無料提供/3万7千人が利用
11月	バーンカード利用状況 前年比+9%、350万枚のバーンカードの利用
2007年 1月	シティチケット拡大 84都市対象
7月	ファンバーンカードの販売（短期間限定）
10月	環境バーンカードの販売（短期間限定）
12月	2007年の利用状況 90万枚販売、390万枚の利用
2008年 3月	バーンカード特典（ファーストクラスの割引提供）
3月	ファンバーンカードの販売 23万枚の販売
5月	シティチケット拡大 109都市対象 販売総数が一億枚到達
8月	バーンカード特典（バイクカードの予約手数料の割引）
11月	バーンカード特典（ファーストクラスの割引提供）
2009年 1月	バーンカード特典（所有者限定のDauerスペシャル実施）
4月	バーンカード特典（所有者限定の長距離列車対象Dauerスペシャル実施）
6月	サンプルバーンカードの販売開始（短期間限定）
6月	バーンカード利用状況 400万枚の利用、ポイントプログラムに260万人登録
6月	クレジットカード機能付きバーンカードの販売
9月	サンプルバーンカードの販売期間延長
2010年 2月	バーンカード利用状況 421万枚の利用、ポイントプログラムに300万人登録
4月	ファンバーンカードの販売
6月	割引バーンカードの導入（若者・高齢者対象）
7月	バーンカード特典（サマースペシャルにバーンカード25の追加割引）
7月	バーンカード特典（入会で20€の割引券やファーストクラス割引などの特典）
8月	サンプルバーンカード25の再販売、レイルプラス機能付加
9月	バーンカード機能無しポイントカード導入
2011年 5月	ワールドチャンピオンバーンカードの販売（グループ割引付）/20万枚販売
2013年	シティチケット機能に出発地の都市交通無料を追加
6月	サンプルバーンカード1+4販売（短期間限定）
6月	運賃改正（若者と高齢者向け割引バーンカード入会費は値段変更無し）
6月	長距離交通をグリーンエネルギー運行へ完全移行
9月	サンプルバーンカード販売（短期間限定）
2014年 1月	ゴールドバーンカード販売（ソチオリンピックでドイツの金メダル翌日を無料）

カードはバーンカード25と同じ割引を受けることができ、販売時期に応じて追加割引特典が付与される。入会費も約20～25€と非常に安価であり、1回の鉄道の利用で入会費を償却することが可能である。期間限定のバーンカードには、イベント連携型バーンカード（2006年以降ほぼ毎年販売）や、環境バーンカード（2005年・2007年のみ販売、鉄道の利用額に応じた環境保全団体への寄付や、環境負荷の低い交通サービスの利用の際にポイント特典を利用できる）、サンプルバーンカード（2009年以降毎年販売、レイルプラスやグループ割引特典などの追加特典あり）などいくつかの種類が見られる^{注13}。

(3) 季節限定のチケット特売

2003年の新しいバーンカードの導入と並行して期間限定の割引チケットの販売が継続的に行われている（次頁表6）。特に2003年以降に始まったシーズン毎の割引チケットの販売は2007年まで続けられ、2007年～2010年までは常時販売の割引制度Dauerスペシャルとして、2010年以降は既存の割引制度バリュープライス25・50のラインナップの一部として販売されている。この季節毎の特別割引はバレンタインやクリスマス、夏期休暇などのイベントに合わせて提供されていたが、Dauerスペシャルへ移行後は、常時販売される割引価格に上乗せする形で家族割引、グループ割引などの期間限定販売が始まった。Dauerスペシャルが2010年にバリュープライス割引に統合されてからはシーズン毎の割引チケットの提供が再開されている。

(4) 企業と連携した割引チケットの販売

企業と連携した割引チケットの販売も2004年以降に見られ、ADAC（2004年、レンタカー会社）との連携では、ADACのメンバーカードがバーンカードとして利用可能な割引や、バーンカードにグループ割引を適用する割引が提供された。この他にLidil（2003年・2008年・2009年、スーパーマーケット）Tchibo（2006年・2007年、チョコレート販売、マクドナルド（2006年）、Nutella（2008年、チョコレート販売）、サターン（2010年、家電量販店）、Nutell-glass（2011年、ガラス食器製造）のように様々な日用品関連の企業とDBが連携しており、鉄道の割引チケットをそれぞれの企業の店舗で店頭販売している。またFerrero（2009年・2010年、チョコレート製菓）との連携では商品の購入ポイントによって鉄道チケットやフットボール関連商品との引換えが行われた。

5-1-2 会員制割引、割引チケット販売の利用実態

(1) 年間契約の会員制度

表 6 DB の 2002 年以降の運賃割引制度の導入状況

割引制度のタイプ	導入年月	割引種類の導入状況											割引制度の導入状況					
		季節	団体	企業	金運	ベア	オフ	一等	長距離	国際	往復	路固		記念	オプ			
季節限定割引	2002年 2月	○																スプリングオフ告知 (利用率の低い長距離区間を活用した割引)
	2003年 12月	○																サンタクローススペシャル告知 (冬期限定の割引チケット)
	2004年 2月	○				○												バレンタインスペシャル告知 (50€/ベア対象)
		○																サマースペシャル告知 (29-34€)/13万人の利用
		○																11月サマースペシャル告知 (29€/片道)
	2005年 3月	○																スプリングスペシャル告知 (国内29€, 国外39€)
		7月	○															サマースペシャル告知 100万枚販売
		10月	○	○														オータムスペシャル告知 (49€/同乗4人まで1人19€, 夜行列車60%割引)
	2006年 11月	○																オータムスペシャル追加販売 /3週間で35万枚販売、20万枚追加販売
		1月	○															ウィンタースペシャル告知 (49€/スイス、オーストリア行き追加)
		7月	○															サマースペシャル告知 (39-49-59€/国際路線3路線運行)
	2007年 10月	○																オータムスペシャル告知 /夏と秋で合計170万枚販売
		3月	○															ウィンタースペシャル告知 /80万枚販売
5月		○															スプリングスペシャル告知 /75万枚販売	
2008年 6月	○																旅行代理店スペシャル (49€/ベアチケット/子供無料)	
	9月	○															Dauerスペシャル導入 (シーズン割引が常時販売へ/事前予約必要)/毎月75万枚販売	
	2月	○	○														Dauerグループ割引 (同乗5人まで運賃を9€割引/事前予約必要)	
2009年 1月	○																Dauer家族割引 (49€/セカンドクラス対象/同乗3人20€/子供無料/事前予約必要)/年700万枚販売	
	5月	○															スペシャルディツパス (299€/若者249€/セカンドクラス/1ヶ月バス/開始一ヶ月早期化)	
	9月	○															Dauer短距離割引 (19€/年1000万枚販売)	
2010年 2月	○																バーンカード対象Dauer (割引価格を25%割引/事前予約必要)/年1300万枚販売	
	7月	○															ジャーマニーバス (299€/若者249€/セカンドクラス/1ヶ月バス/開始一ヶ月早期化)	
	12月	○															Dauer家族割引 (49€/ベア利用/子供無料/同乗者3人まで20€/事前予約必要)	
合計	25	5	1	2	3	1	0	4	3	1	1	0	2					
	グループ割引	2002年 2月	○															スプリングオフ告知 (利用率の低い長距離区間の割引)
		11月	○															寝台列車ベア割引 (ベア利用半額/変更・組み合わせ不可)
2003年 4-6月		○															夜行列車ベア割引 (ベア対象138€)	
2004年 9月		○	○														ADACとの連携 (同乗者1人無料、3人半額、子供無料)	
2005年 5月		○	○															Lidlコロポ (49€/2回分の割引チケット)/50万枚販売
		12月	○															ジャーマニーチケット (59€/翌年1月の火~木曜日無制限利用)
2006年 3月		○	○															マクドナルドコロポ (4人分99€)/100万枚販売
		7月	○	○														グループ割引 gruppe&spar70,60 (最大36,6€+座席24€/6~49人対象)
2008年 2月		○																Nutellaコロポ (通常運賃/割引運賃を25%割引/ベア利用可能/子供無料/国内線のみ/高速鉄道には追加料金)
		7月	○	○														バーンカード対象Dauer (19€~/適量1400万枚販売)
		11月	○	○														Tchiboコロポ (60周年記念/片道チケット6回分/1枚26,6€/子供無料/追加料金/国内限定/金曜不可)
2009年 4月		○	○															クロスカントリーチケット (34€/地方鉄道/平日対象/同乗4人5€/子供無料)/2ヶ月20万枚販売
		5月	○	○														Ferrero コロポ (商品購入ポイントで同乗無料券、往復可、子供3人無料)
	6月	○	○														Gruppe&Spar30&40の導入 (通常24€/人の予約手数料を利用人数で変更)	
2010年 9月	○	○															バリューブライズ導入 (Dauerスペシャルの後身/バーンカード会員25%割引/セカンドクラス8つの価格/子供無料)	
	11月	○	○														Lidlコロポ (66€/オーストリア行き2回分のチケット/子供無料/一部列車利用不可/高速鉄道は追加料金)	
	12月	○	○														ジュピリーバス (269€/26歳145€/1ヶ月バス/一部美術館無料・12月17日の特別列車無料/高速鉄道は追加料金)	
合計	1	20	9	3	5	3	0	7	0	4	0	3	0					
	企業連携	2004年 3月		○														ADACとの連携 (週末にADAC会員カードをバーンカードとして利用可能)
		7月		○														テレビ会社連携 (199€/若者対象1ヶ月バス/音楽イベント割引付き/高速鉄道には追加料金)
2006年 12月			○	○													Tchiboコロポ (58€/片道2回分/子供無料/金曜日不可/高速鉄道は追加料金)/50万枚販売	
2007年 12月			○	○													Tchiboコロポ (58€/片道2回分/子供無料/金曜日不可/高速鉄道は追加料金)/50万枚販売	
2008年 12月			○	○													Lidlコロポ (55€/2回分チケット/サンプルバーンカード25半額購入券)/月75万枚販売、100万枚の追加販売	
2009年 3月			○	○														Leibnizコロポ (往復チケットを25%割引/長距離路線の利用が必要/子供無料)
2010年 1月	○	○															ブラウンコロポ (99€以上の商品購入でセカンドクラス3,5€/要旅程登録/金曜日不可)	
	8月		○														Ferreroコロポ (商品購入ポイントで長距離列車のチケットやサッカーグッズ引換)	
	合計	0	1	9	0	5	0	0	1	0	4	1	1	1				
その他	2002年 7月																	ファーストクラス割引 (利用率が低いファーストクラス座席を割引)
	2003年 9月																	ドイツ統一記念乗車券 (25€/セカンドクラス/長距離列車対象)
	2004年 3月																	surf&rail拡大 (対象区間と座席数を倍増)
		6月																車搬送サービスのオンライン予約割引 (15%割引)
		7月																国際路線格安チケット販売 (39€/片道)
	2006年 10月																	surf&rail一周年記念 (割引価格を50%割引)/2万枚販売/年13万人利用
		3月																ロンド行き格安チケット販売
	2007年 5月																	既存鉄道路線の改修記念チケット(19€/39€)
		11月																新規路線開通記念チケット(19€/39€)
	2009年 7月																	ファーストクラススペシャル (49/59/89/109€)
	2010年 11月																	自動車搬送列車割引 (20%割引)
2011年 4月																		ベルリンの壁崩壊の日記念乗車券 (片道20€/高速鉄道、特急列車)
	5月																	イースタースペシャル (22€/国内限定/セカンドクラス片道/夜行列車は追加料金)
	19時																	鉄道175周年記念チケット (35€/長距離交通対象/ベア割引/指定列車利用/子供割引不可)
合計	0	0	0	0	1	3	2	3	2	3	2	5	3					

地方: 地方鉄道割引/オフ: オフピーク割引/国際: 国際路線割引/イベ: イベント割引/限定: 世代限定/路固: 路線固定/指定: 指定列車/往復: 往復割引/他: その他

まずバーンカードの利用状況を見ると、2002年までに旧来のバーンカードは約300万人に利用されていた。2003年に新制度に移行した直後には2週間で約21万枚が販売され、2004年に300万枚の入会者数を達成し、このうち新しい割引制度のバーンカード25は販売数の約50%を占めている。2005年にはバーンカード購入の際にバーンカード25を無料提供するキャンペーンが行われ、3ヶ月で90万枚が販売された。バーンカードの利用者数はその後も増加し、2006年に350万枚、2007年に390万枚、2009年に400万枚、2010年に420万枚のカード利用者数を記録している。この他に全てのバーンカードに付与される割引特典のシティチケット(2003年に導入され、200km以上の長距離交通の際に、シティチケット指定都市の都市交通を無料化)が2008年に1億枚を記録しており、バーンカードは相当な数の利用者に対して安価で利便性の高い長距離交通を提供している。

(2) 短期間限定の会員制度

短期間限定の会員制度で最も早い時期に導入されたイベント連携型のバーンカードは、フットボールやオリンピックなどの国民的スポーツイベントの結果に応じて利用期間が変わるといふ、イベント的要素を兼ねた会員制割引である。フットボールイベントとの連携を主としているが、2014年にはオリンピックでドイツ選手がゴールドメダルを獲得すると翌日の鉄道利用が無料化される限定販売のバーンカードも見られる。2006年からほぼ毎年の頻度で販売が見られ、利用状況の分かるものでは2006年に42万枚、2008年に23万枚、2011年に20万枚が販売された。これは2011年時のバーンカードの利用者数420万枚を考慮すると約5～10%を占めている。

(3) 季節限定の特売チケット

シーズン別の特別チケットの販売では2004年夏に73万枚、2005年夏に100万枚、2006年夏・秋に合計170万枚、2007年冬・春に合計で155万枚の販売が行われた。2007年にシーズン割引がDauerスペシャルに変更されてからは毎月75万枚の割引チケットが販売され、2年間で1400万枚が販売されるなど、安価なチケットに対する人々の利用者のニーズの高さがその販売数に現れている。企業と連携した割引チケットもLidlが2003年50万枚、2008年75万枚、2009年25万枚、Tchiboは2006年50万枚、2007年50万枚、マクドナルドが2006年に100万枚、サターンが2010年に25万枚を販売しており、バーンカード、季節別の特売チケットと合わせると、相当な数の割引チケットが人々に常

時提供されている。

5-1-3 バーンカードとの連携による運賃割引

このように2010年以前の運賃割引制度の導入状況から、DBではバーンカードとシーズン毎の運賃割引がそれぞれ独立した制度として人々に提供されてきたことが分かる。一方でバーンカードの利用者数の増加が鈍化する2009年以降、新しい利用者層を開拓するための取り組みも行われている。2009年の1月と4月にはバーンカード所持者対象の割引チケットが販売され、2010年にDauerスペシャルを統合したバリュープライス割引では、19～89€の割引価格に対して更にバーンカード25の割引適用が可能になった。また、2010年7月の夏期の特別料金では対象路線を固定した19€の特売チケットにもバーンカード25の割引が適用されている。2009年はサンプルバーンカード25が販売開始された年であり、短期間の入会でも、既存の割引制度と会員制割引の組み合わせによって更に安価な割引価格の利用に付加価値を生み出し、会員制割引の利用者を獲得する試みが進められていることが分かる。

5-2 SNCF: 特別列車・運行数限定の安価な運賃制度⁷⁾⁸⁾

5-2-1 運賃割引制度の導入状況

SNCFでは2003年以降、TGVの事前割引制度Prem'sを中心に、安価な鉄道運賃を利用者に提供してきた。2010年以降は、Prem'sに加えて様々なイベントと連携したパッケージ型の運賃割引を適用する事例が増加している。事前予約限定、変更・キャンセル不可の割引制度Prem'sを活用した運賃割引では路線固定、運行本数限定による特別列車の運行がとりわけ特徴的で、1日数本しか運行しない長距離列車を対象とする場合が多い。

(1) 新旧の会員制割引

表7に示す通り会員制割引については、2003年の時

表7 SNCFの会員制割引の導入状況

導入年月	会員制割引の導入状況
2003年 4月	週末カードの導入、26歳以上対象の週末カード/TGV、寝台を40%割引/ 200km以上の往復交通・目的地での宿泊が必要/オフピーク時にインターシティ・TER等を30%割引、通常は5%割引 チャイルド+カード(63€)、12-25カード(48€)、シニアカード(49€)は導入済み
2006年 5月	週末カードの値下げ、85€、2006年に10万枚の売り上げを計画
2009年 7月	1000台のPrem's限定列車運行 往復利用するシニアカード会員には、子供無料、12-25カード所持者にはグループ割引を適用(4人まで) 2009年時点の利用状況 シニアカード100万枚/12-25カード150万枚
2010年 2月	小家族カードの導入/低所得層の小家族向け、3年間15€、1年間で20万枚発行
9月	TGV30周年記念12-30カードの販売 40万枚販売
2011年 7-8月	Prem's限定列車の運行/シニアカード所有者は子供を2人まで同伴可能
2012年 3月	割引シニアカードの販売、ファーストクラス40%割引を追加 10日間で10万枚販売
9月	フランスドイツ新路線開通一会員制割引利用者は旅先で割引が可能
10月	新しい会員制割引の導入 2ヶ月で80万枚の販売、10万枚の追加販売
10月	新割引カード導入1周年 40€で40万枚を販売
2013年 6月	バリエノバ開通者向け割引、最大60%割引、ユース・ヤングカードが必要

点で既にチャイルド+カード、12-25カード、シニアカードの3つの割引制度の導入が見られ、2003年には大人対象の週末カードが新たに追加された。2011年には低所得で小規模な家族を対象とした小家族カード導入され、年間に20万人近くのカードが発行された。そして2012年9月には既存の割引制度の12-25カードをユースカード、ヤングカードに細分化し、5つのクラスにリニューアルした会員制割引が提供されている。新しい会員制割引は既存のもの比べて年会費が若干

高いものの、割引方法、割引率も一部のクラスを除いて概ね同じである。

(2) 特別列車・運行数限定の運賃割引

SNCFではこれらの会員制割引に加えて、運行本数を限定した大幅な割引の提供を特徴とする公共交通の導入が2011年以降も続けられている(表8)。

南フランスのLanguedoc Roussillon地域圏では、2011年に州内の主要な鉄道路線で指定列車の利用・オンライン予約限定の条件で1€の運賃で鉄道を利用でき

表8 SNCFの2002年以降の運賃割引制度の導入状況

割引制度タイプ	割引種類	導入年月	導入された運賃割引とその概要 (価格は一部を除きセカンドクラスのもの)														
			イ	事	ベ	一	長	地	オ	国	限	路	指	往	他		
イベント連携	2004年	5月	○	○			○									サマープロモーション (300の指定路線/25€)/500万枚の販売	
		5月	○	○			○									サマープロモーション延長 (TGVパリ-マルセイユ/9月~11月)/毎週2000座席販売	
	2006年	5月	○	○			○									TGV25周年記念 (15€/TGVとCorail対象/火~土曜日対象)	
		9月	○	○			○									TGV25周年記念 (TGVチケットを5€で提供)/5万枚の販売	
	(4)	2010年	6月	○				○								TER Auvergne (夏期休暇向けの割引チケット)/1600万人が夏期に鉄道を利用	
		9月	○				○									公共交通の日、モビリティウィーク割引チケット(1€バスや5€の1日券など)	
		11月	○								○	○				漫画フェスティバル連携 (Fnacと連携/入場料・お土産付きパッケージ旅行/50€)	
	2011年	9月	○													ヘリテージと公共交通の日割引券	
	2012年	6-7月	○				○					○	○			ベルフォート音楽イベント連携 (25€~/車内音楽演奏/往復35%割引/シャトルバス送迎)	
	2013年	2月	○				○				○	○				ワインテイスティングイベント連携 (19€/Franche Comte州/シャトルバス送迎)/7台運行	
		2月	○	○						○	○					バーゼルイベント連携 (2台運行/ストラスブルグ発-5人まで32€/5人まで21€-ミューズ発)	
		4月	○	○												夏期休暇向けの往復旅券の販売 (カスタマイズされたサービスの提供)	
		5月	○	○					○							TGVノース20周年記念乗車券 20€/土日固定/TGVノースの区間/車内イベント/TERのサマーオファー	
		7月	○	○					○							IDBus1周年 (記念割引券の提供など)/年間20万人の利用	
		7月	○	○												Deauvilleのアメリカ映画祭連携 (5年目の協賛/特別Prem'sチケット販売/15€~/18万枚販売)	
8月		○	○												モビリティウィーク無料チケット (Languedoc-Roussillon地域圏/無料チケット提供)/1000枚提供		
8月		○	○												新年記念乗車券。TGVの売残りチケットを全てPrem'sで販売		
2014年	1月	○	○					○							ストラスブルグ-マイラブ連携 (ベア半額割引/ストラスブルグ発着TGV/オフピーク時75€)		
	2月	○	○					○							スキー割引 (TERと地元企業とのコラボ)		
	3月	○	○												Ouigo、夏期限定の格安チケットの販売 (10€~/子供5€固定)/年間200万人利用		
	4月	○	○												リヨンフィルムフェスティバル連携 (特別Prem'sTGVの運行、2日間1日数本の運行)		
合計		22	8	2	0	0	5	6	2	1	0	8	7	2	4		
事前割引/直前割引	2003年	4月	○				○									Prem'sの導入/500の長距離路線/TGV30€~/Corail25€~/Corail寝台40€~/	
		4月	○													直前割引導入/50の指定都市限定/毎週火曜日に発売	
	2004年	11月	○													15€の格安チケット販売 (国内150路線/2時間半圏内)/50万枚の販売	
		12月	○													週末割引 (200の指定路線/39~69€/TGV寝台可/宿泊必要/週を跨いだ利用も可能)	
	2005年	3月	○													セカンドクラス50%割引 (2ヶ月間販売/旅行代理店限定/TGVとCorail)/15万枚の供給	
		7月	○							○	○	○				Prem's限定列車運行 (対象区間固定/月曜日~木曜日限定)/1日30台運行	
	2011年	5月	○													TGVベア割引の販売	
2013年	9月	○													Intercités特売チケット (15€~/寝台35€~/300の固定路線対象)		
2014年	3月	○													学生向けPrem's (15€~/サタデーPrem's/土曜日往復30€~/2時間圏内限定)/100万枚販売		
合計		0	10	0	1	0	6	0	3	0	1	7	1	3	1		
その他	2004年	5月		○												ファーストクラスプロモーション (ビジネスクラスは往復半額/50%の変更手数料)	
				○												グループ往復割引&Go (2-5人/パリとリール間50~70%割引/ウェブ限定)	
	2005年	1月														ファーストクラスプロモーション延長 (国内500路線/TGV50€、Corail40€)	
		3月														運賃改正 (Prem'sの料金変更無し/Corail20€~/TGV25€~/寝台35€~/)	
	2006年	3月														短距離Prem'sの提供開始 (2005年のPrem'sの利用は全体の8%を占める)	
	2010年	9月														ニース-モスクワ間の路線開通 (306€~/)	
	2011年															イタリア-フランス国際路線 (25€~/)	
	(4)	2012年	5月														整地巡礼列車の運行協定の締結
		5-6月		○			○										インターシティ新割引 (指定限定特別列車/~25€など/小グループ割引/最大60%割引)
		12月															ドアウトドアサービスの開始(タクシー送迎サービス)
2013年	5月		○													IDBus高齢者グループ割引 (オフピーク利用/55歳以上を対象)	
	5月		○													スイス行きグループ割引 (2-5人対象/1人35€)	
	6月															新型車両の運行/カスタマイズサービス導入	
	7月															Voyageurプログラム150万人 (150万人入会記念イベント)/150万人の登録	
2014年	7月															パリ-フライブルグの新路線開通	
	9月															Ouigo半年で100万枚のチケット販売	
	4月															IDBusサービス拡大 (4月に南フランスで対象路線拡大)	
合計		0	0	4	0	2	3	0	1	4	1	2	1	3	6		

団体:グループ割引/ベア:ベア割引/一等:ファーストクラス割引/長距:長距離交通割引/地方:地方鉄道割引/オフ:オフピーク割引/国際:国際路線割引/イ:イベント割引/限定:世代限定/路固:路線固定/指定:指定列車/往復:往復割引/他:その他

る1€列車が導入され、2015年までには州内全域を網羅したサービスを実現することで地域発展を実現する政策が進められている。1€列車の運行に必要な追加コスト3.5万ユーロは同州によって補填され、2012年には州からSNCFへ従来の1億€を増額した1億600万€の出資が行われている。

2012年には主要都市間交通のIntercitéに新しい運賃割引100% Ecoが追加された。100%Ecoは既存のパリ-トゥールーズ間で運行されていた指定列車の運行サービスを正式な運賃制度に格上げしたもので、対象路線を順次増加させている。ウェブ予約限定、変更・キャンセル不可の条件でセカンドクラスの列車を15€～30€で利用できる。

2013年には導入されたOuigoはパリと南フランスを結ぶ対象路線固定型の格安TGVで、1日に2往復のみの限定運行が行われ、600km以上離れたパリと南フランス間を10～25€の価格帯で利用することが可能になった^{注13}。このような本数限定、路線固定の割引制度は2000年代前半から存在しており、近年のフランスに見られる格安な公共交通のプロモーションは、既存の割引制度を合理的に活用した格安交通のブランド化の試みとして捉えることができる。

この他に鉄道に対する新しい運賃割引制度だけでなく、SNCFでは欧州の主要都市間を結ぶコーチバスサービスiDBusを2012年7月に新たに導入している。iDBusはグループ客の利用をターゲットとし、サービス開始と同時に9人以下の小さなグループに大幅な割引が提供されている。翌年には常時利用可能な10人以上の大グループ割引、期間限定販売の高齢者対象のグループ割引を導入するなど、長距離交通における移動の際のコミュニケーションを重視したサービスが創出されている。

5-2-2 運賃割引制度の利用実態

(1) 会員制割引の販売状況

2010年時に公表された会員数の変動状況を見ると、12-25カードに関しては2004年まで、シニアカードは2008年まで増加が見られ、以降は利用者数は一定の数で推移している。2009年時点の会員制割引の入会者数を見ると、12-25カードが150万人、シニアカードが100万人の利用者数を記録している。2003年に導入された週末カードは売り上げに伸び悩みが見られ、2005年には年会費の値下げによって10万枚の売り上げが計画され、更に2009年まで割引率が増加されている。新しい割引制度に移行する直前の2011年には、TGV30周年記念の12-30カード(対象年齢を12-30へ拡大した

記念会員割引カード)が販売され、販売開始から2ヶ月で40万枚の売り上げを達成し、40万枚が追加販売された。2012年にはファーストクラス割引が付加された割引シニアカードが10日で10万枚近く販売されている。同年9月に導入された新しい割引制度も導入から2ヶ月で40万枚を販売し、更に40万枚の追加販売が行われるなど、一定の需要の存在を伺う事ができる。

(2) 運行数限定の特別列車割引の利用状況

運行数限定の特別列車割引の利用状況について見ると、intercityの割引制度100%エコでは、SNCFによると利用者の総数は公表されていないものの、既存のパリ-トゥールーズ間の路線を利用する乗客の約90%は鉄道を利用した理由として運賃の安さを理由にしている。南フランスのLanguedoc Roussillon地域圏で運行される1€列車については、路線毎に利用状況が大きく異なるが、特定の路線では通常の3倍近くの乗客の利用が生じている。そして1€列車の導入によって従来20万人に止まっていた地方鉄道の利用者数が2012年に65万人近くに増加し、2011年から1年間の間に100万枚近くのチケットが販売された。

同じく南フランスとパリを結ぶ格安高速鉄道Ouigoについては、サービス開始から1年間で約200万枚のチケットが販売され、南フランス-パリという、フランス人に人気の高い路線への需要が利用者数の高さに現れている。一方、グループ向けバスサービスのiDBUSは2012年のサービス開始から1年間で20万人の利用を記録している。この数字は鉄道と比べてバスが一度に輸送できる乗客のキャパシティの低さを示しているが、2013年以降も南フランスを中心に対象路線を拡大している。

5-3 小結

本章の分析からは、欧州の主要国のドイツとフランスで様々な運賃割引の導入が2000年代初頭から持続的に行われており、ドイツでは会員制割引と期間限定の割引の連携によって安価な運賃割引の導入を進めていること、そしてフランスでは既存の会員制割引を活用した割引運賃の提供に加え、極めて安価な公共交通によって広域圏における人々の移動を自由化する試みが精力的に進めていることが明らかになった。また、近年のドイツとフランスに見る運賃割引の動向の特徴には、何れも既に確立した割引の方法を組み合わせる、あるいは合理的に再利用することで新しいサービスを生み出す傾向が見られる。ドイツの約420万人(2010年)、フランスの250万人(2009年)という会員制割引の利用者数と、その他の運賃割引の導入状況を考慮

に入ると、これまでに人々に提供されてきた割引制度の総数は非常に多く、日常生活や観光に伴う内外からの需要を取り込みながら、国内、そして欧州の圏域内を循環する人の流れが促されてきたものと考えられる。そしてこのような交通のあり方が既に長期に渡って維持されてきたことも特筆すべき点といえる。

6. 結論

6-1 安価な割引制度実現のための取り組み

近年の欧州における安価な鉄道運賃制度の相次ぐ導入は、広域圏における都市と地方の間の人の移動の活性化がもたらす、社交的機会による消費の創出、国境や州境、都市と地方の境界を越えた往來を活性化することによる観光需要の創出、そして会員制割引のポイント制度に見られるように、使って貯める・貯めて使うという鉄道利用の促進による自動車利用者層の取込みなど、様々な変化を通して広域圏全体に発展の機会を生み出し、安価で持続可能な運賃制度を実現する考え方を示しているように思われる。

会員制割引に課される一定額の年会費についても、会員カードの発行数を考慮すると、運賃制度の持続性に大きく貢献するものと考えられる。現に分析対象とした各国では移動中の快適性・コミュニケーションの質・環境問題への貢献・会員制度への入会時割引・カスタマイズされたサービスなど、様々な付加価値を創出し、会員制割引の利用者の裾野を広げる取り組みを積極的に展開しており、アフォーダブルで持続可能で運賃制度の実現が目指されている。

6-2 低成長社会に適応した公共交通実現の課題

本稿では欧州における新しい運賃割引制度の導入状況とその特徴に着目し、各国の割引制度に共通して見られる特徴と、2002年以降に積極的に鉄道の運賃割引制度を導入してきた経緯を持つドイツとフランスの事例とその利用状況について分析を行った。

欧米諸国では近年、公共交通が広域圏の持続的な発展や人々の社会的生活の形成に対して担う多様な役割についての議論が進められている。本稿の研究対象国で見られた新しい運賃割引制度の展開は、短期的な開発による利益や、技術的な利便性の向上による発展だけでなく、広域圏内を日常的なサイクルで循環する、ヒト・モノ・コトの移動の活性化を通して新たな発展の余地を生み出し、停滞する社会経済的状况を打開する可能性を示唆している。

他方、我が国では、多くの人々の都市と地方の往來を支える鉄道サービスに対し、整備新幹線の新規整備、

次世代交通の開発、利便性の向上、厳密な運行管理など、技術的・開発的側面が優先されてきた。しかし人口縮退という今日の社会経済的情勢下では、近年の欧州における運賃割引制度へのアプローチのように、人の移動と交流の活性化への積極的な支援による、社会的に持続的な広域圏の発展が必要であり、今日的な公共交通のあり方を再考することは重要な課題といえる。

脚注

注1 ERPは衰退する欧州の鉄道部門の競争力を高めることを目的とし、鉄道システムの段階的な民営化を促すために2001年以降導入された欧州連合の法律である。FERPに先立ち2001年の第1次鉄道政策では貨物輸送の将来的な自由化、2004年の第2次鉄道政策では欧州における鉄道運営の共通の安全性基準を設定・管理する欧州鉄道機関(European Rail Agency)の設置、2007年の第3次鉄道政策では貨物輸送と国際路線の自由化が定められた。

FERPを欧州議会における議事として採択した欧州委員会には政策課題別に委員が存在し、2010-2014年までの5年間の任期において欧州加盟国の教に応じた28人の委員が加盟国から選出されている。FERPとの関係が伺える重要な役職の委員を見ると、現在の欧州委員会委員長は、欧州における地政学的・地理経済的一体性の重要性や、一層の欧州の統合を目標としている。また、全体で8人の副委員長レベルでは、2人が国境を越えた連携や、欧州内の人々の自由な移動の実現を重要な政策課題としており、他に1名が利用可能で、安価な、質の高い公共サービスの実現を重要な政策課題としている。

注2 FERPはその政策目標の実現のために具体的には、①新規事業者の参入を促進するための認証システムの簡略化、②競争入札による公共交通運営主体の選定の部分的な導入、③欧州全体で公平で円滑な鉄道運営を担保と鉄道管理主体の権限強化、④欧州全体の鉄道運営に対応できる新しいスタッフの訓練などの鉄道運営における構造改革を提案している。また、従来の鉄道運営の上下分離政策から一転し、上下一貫した鉄道運営についても一定の条件を満たすことで容認する姿勢を示していることは大きな変化といえる。尚、欧州連合の立法のプロセスでは、欧州連合レベルの法律が成立した後、加盟国レベルでこれに準ずる法律を関連省庁が制定することで、具体的な政策実施に対する法的な強制力が生じる。ERPもこれに準じるものだが、それぞれの国が立法の過程で独自の解釈で法案を制定するため、欧州連合レベルでの法案の一貫性が損なわれている現状がある。FERPはこの点についての改善の必要性も指摘している。

注3 ここでいうアフォーダブルという言葉は、安価な、購入しやすい(購入可能な)、という言葉本来の意味に則して用いており、低所得者、若者、高齢者をはじめ、全ての人々にとって利用可能な、安価で購入しやすい鉄道運賃の在り方を指す。

注4 NRでは2008年時点で既往の運賃システムをアドバンテージ/オフピーク/エニタイムの3区分に統合、Trenitaliaでは2012年に運賃システムの改正がなされ、ベース/エコノミー/スーパーエコノミーの3区分に統合とされた。ベース価格以外は数量限定で、最低価格は9€に設定されている。運賃の値下げではRenfeが2013年に割引制度の導入と同時に高速鉄道運賃の初の値下げを行い、高速鉄道の通常運賃が約11%値下げされた。この他にDBの2013年の鉄道運賃の値上げの際には、高齢者、学生向け向けの割引バーンカード、バーンカード100の値段が据置きされ、特定の年齢層を対象にした会員制割引が相対的に値下げされている。

注5 Prem's TGVは指定列車による運行本数限定の高速鉄道である。

注6 表中に示す国際路線、長距離路線(100km以上区間、又は主要都市間)、地方鉄道(州限定)の距離概念図は右図に示す通りである。



注7 この他にも割引は適用されないが、従来よりも変更・キャンセルの条件を

緩和した回数券や往復割引券などが導入されている。

- 注 8 Trenitalia の事例はポイント 2 倍サービスや提携企業特典など、直接運賃を割引かないものが多いためここでは割愛している。
- 注 9 DB と NS では購入時にファーストクラスとセカンドクラスの何れかの会員制割引を選択できる。
- 注 10 早期割引は数量限定の早期予約割引、インターネット限定、直前割引は直前購入限定の割引チケットの提供を指す。
- 注 11 オランダではロッテルダムの地方鉄道でポイントプログラムが導入されており、NS ではスマートカードへの完全移行後にポイントプログラム導入を検討される予定である。
- 注 12 これらのカードは会員制度の利用を容易にする一方で有効期間が切れる前に契約終了の申告をしなければ自動的に年契約に切り替えられるため、利用の際に注意が求められる。環境バーンカード、サンプルバーンカードの販売数は調査対象のデータでは公表されていない。
- 注 13 事前予約で割引チケットが完売した場合も通常の TGV の価格よりも大幅な割引が適用された価格での利用 (85 €) が可能である。子供は 5 € 固定で大きな荷物の持ち込みは不可、更に 30 分前までにプラットフォームに集まることが求められ、飛行機よりも利便性の高いサービスが提供されている。

参考文献

- 1) European Commission, <http://europa.eu>, 2014-05-28
- 2) European Parliamentary research service, <http://epthinktank.eu>, 2014-06-28
- 3) 小澤茂樹、根本敏則「欧州の鉄道上下分離における線路使用料の役割」、交通学研究 vol156, pp59-66
- 3) National Rail, <http://nationalrail.co.uk/>, 2014-05-28
- 4) Association of train Operating Companies, <http://www.atoc.org>, 2014-05-28
- 5) Rail Delivery Group, <http://www.raildeliverygroup.com>, 2014-05-28
- 6) Deutsche Bahn, <http://www.bahn.com>, 2014-05-28
- 7) Ticket webpage, <http://ticketinfo.ch>, 2014-05-28
- 8) SNCF, <http://www.sncf.com>, 2014-05-28
- 9) Nederlandse Spoorwegen, <http://www.ns.nl/>, 2014-05-28
- 10) Treinreiziger, <http://www.treinreiziger.nl/>, 2014-05-28
- 11) Renfe, <http://www.renfe.com>, 2014-05-28
- 12) Brog Renfe, <http://blog.renfe.com/>, 2014-05-28
- 13) Trenitalia, <http://www.trenitalia.com>, 2014-05-28
- 14) SNCB, <http://www.belgianrail.be>, 2014-05-28

(受理：平成 26 年 5 月 29 日)

